

桶川宿さんぽ

歴史をたどる街あるき

江戸から十里の距離に位置した6番目の宿、桶川。
 紅花の集散地として知られ、全国から多くの商人が集まる宿場地として栄えました。当時を思わせる建造物など、多くの面影が残る桶川宿の歴史をたどりながら街歩きを楽しもう。



中山道宿場館

中山道宿場館では、市内の散策コースや文化財などのご案内を行っています。また、中山道桶川の3色刷り体験や、中山道に関する情報などの案内・ご休憩などにご利用いただけます。なお、中山道桶川宿を、ガイドボランティアと一緒に歴史散策、気付きにくい見所のポイントなどの解説でまち歩き。5名以上の個人・団体等でご利用いただけます。

桶川市寿1丁目11-19 ☎048-778-3567
 ◎9:00~16:00 ◎年末・年始

左:オケちゃんラバストラップ 400円
 右:オケちゃんマンホールコースター 500円

中山道とは?

江戸時代の五街道の一つ江戸日本橋から京都三条大橋まで六十九の宿場があり全長約五百三十km(約百三十五里)埼玉県には、9つの(蕨・浦和・大宮・上尾・桶川・鴻巣・熊谷・深谷・本庄)宿場がありました。



きせいでどうおけがわにまこうげん、のけいせい、いせい、あせが 岐阻街道桶川宿驛原之景英泉画



桶川べに花物語

むかし、染物や口紅の原料として使われた紅花。桶川の紅花は、江戸時代の終わりごろ、商人によって山形からタネと育て方が伝えられ「桶川胭脂」の名で、全国で有名になりました。明治時代、化学染料が使われるようになると、表舞台から消えてしまった紅花ですが、平成になって市民の手により蘇りました。毎年6月中旬から6月下旬に開催されている「べに花まつり」の時期には、川田谷地区にあるべに花畑で花を咲かせています。

オケちゃんプロフィール

べに花をモチーフとした「オケちゃん」。「べに花の郷桶川市」のPRのため、がんばっていますので、みんなで応援してくださいね。

- 平成22年11月3日生まれ
- 歩くの大好き
- あたまは「べに花」
- 服装は、中山道をイメージした羽織・はかま・たび・わらじです。



桶川市ゆかりの人物

日本初の女性農学博士
辻村みちよ(1888~1969)
 明治21年に桶川で生まれ、桶川尋常高等小学校(旧桶川南小学校)を卒業しました。15歳の時、独学で資格を取得し、父が勤めていた加納尋常小学校に準訓導として勤務。現お茶の水女子大学を卒業し研究者の道へ、大正13年に緑茶に多量のビタミンCが含まれていることを発表し、昭和4年緑茶中のカテキンを世界で初めて発見。昭和7年44歳の時日本初の女性農学博士になりました。同博士の出生の地である桶川市に平成25年11月に愛知県豊橋市から顕彰石碑を移設しました。

直木賞作家
安藤鶴夫(1908~1969)
 明治41年東京都台東区に生まれる。昭和20年に東京大空襲にあい、奥さんの実家である桶川町へ疎開。「落語鑑賞」「不二」を発表。上野の本牧亭を舞台に自分自身をモデルにした作品「巷談 本校亭」で直木賞受賞。「不二」は、武村旅館を舞台にし桶川で出会った人々をモデルに描いた作品です。

梵語学者・僧
音利房盛典(1662~1747)
 21歳で光照寺に入り、奈良の長谷寺や京都の智積院で修行をし、新義真言宗を学ぶ。1697年知足院の住職となった。仏教を研究する目的で梵語を学び、100冊以上の著書を出し、偉大な梵語学者と言われた。1688年、光照寺で修行中に「加納天満宮の社号額(市指定文化財)」を奉納した。晩年は再び知足院に戻り84歳で亡くなりました。



おけがわ散策MAP

SIGHTSEEING GUIDE IN OKEGAWA



お車で越しの場合
 ▶ 圏央道 桶川北本1.C. 圏央道「鶴ヶ島」JCTから約10分
 ▶ 圏央道 桶川加納1.C. 圏央道「久喜白岡」JCTから約10分
 首都圏高速大宮線「野与」ICから約30分

電車で越しの場合
 ▶ JR桶川線 (高崎線、湘南新宿ライン、上野東京ライン)
 [東京駅]から約55分
 ※桶川市内循環バス「べにばなGO」を利用できます (詳しくは「べにばなGO」を検索!)



武村旅館 国

嘉永5年(1852)に建てられた旅籠の建物です。建築当時の間取りが現在もほぼ残されています。(現在は営業していません)
 ☎桶川市南1丁目8-8



島村家住宅土蔵 国

江戸時代後期の天保7年(1836)に建てられた3階建ての土蔵です。屋根には屋号「木嶋屋」の一字である「木」の字を刻んだ鬼瓦がのせられています。
 ☎桶川市寿2丁目1-4



島村老茶舗店舗兼主屋 国

嘉永7年(1854)創業の茶商を営む商家です。江戸時代末期には紅花の商いも行いました。現在の建物は、大正15年(1926)に建て替えられたものです。
 ☎桶川市寿2丁目1-5



小林家住宅主屋 国

江戸時代末期頃に建てられた旅籠の建物で、外観は建築当時の姿をとどめています。建物正面2階には格子戸をはめこんだ出窓を見ることができます。
 ☎桶川市寿1丁目14-11



矢部家住宅主屋 市

矢部家は穀物問屋を営むとともに、紅花商人としても活躍しました。桶川宿で現存する土蔵造りの店蔵は、この矢部家一軒のみとなりました。
 ☎桶川市寿2丁目1-10



桶川宿本陣遺構 県

文久元年(1861)の皇女和宮下向の際には和宮様のご宿泊されました。「上段の間」などの座敷構えの一部が現在も残されています。(一般公開はされていません)

桶川市は、埼玉県の中央に位置し面積は25.35km²。昭和45年に県下31番目の市として誕生しました。現在、桶川市では、「学び豊かな笑顔あふれる 幸せ未来都市 おけがわ」の実現を目指し、歩みを進めています。

発行：一般社団法人 桶川市観光協会
 住所：桶川市寿1-11-19
 TEL 048-776-8590 FAX 048-778-3567
 Email kankouokegawa@yahoo.co.jp
 令和7年3月発行